

現代GP

プロジェクトの活動紹介



「蔵のまち雛祭り」会場にて
アンケート調査実施

プロジェクト名：蔵の街プロジェクト

担当教員：鈴木健司講師



学生による調査風景

2005年2月26日、27日の両日にわたり、半田市の「蔵のまち雛祭り」会場にて、蔵の街プロジェクトの学生たちが来場者調査を実施しました。

今回のアンケートは、半田市と大学の合同プロジェクトが母体となっています。

半田の集客力、半田の魅力を調査する目的で、運河沿いと赤レンガ倉庫付近で来場者ヒアリングを実施しました。

冬空の寒いなかにおける2日間の調査でしたが、16名の学生が奮闘しました。下記の項で、参加した学生の声を紹介します。



学生による調査風景



一般公開された赤レンガ倉庫



半田運河沿いの蔵の風景

現代GP

参加学生の声

西出俊一君（経済・2年）蔵の街プロジェクト

今回、初のアンケート調査ということもあり、とても緊張するとともに初めは不安でした。しかし、実際に調査を行ってみて楽しかったです。それは、調査を通して地域の人々とふれ合い、交流が図れたことです。このようなコミュニケーションを図っていくことが地域の活性化につながっていくと感じました。

今回、アンケートを行っていて、地域観光の知名度に関してPR不足という意見も聞かれ、今後、どのようなまちづくりを行っていけばいいのかわからためて考えさせられました。

私は今回の調査を通して、もっとまちづくりについて調査・分析などをしてみたいと強く思いました。



左から西出君、伊藤君

伊藤尚人君（経済・2年）蔵の街プロジェクト

今回のアンケート調査を通して、お祭りに来ているお客さんの意見をベースに半田市の産業・文化・観光の活性化を図ることが大切であると感じました。

アンケートのなかで、お祭りのPRが積極的でないという意見が聞かれ、半田市の魅力を市内外に積極的にPRすることが活性化の第一歩であると感じました。

今回のアンケートでは、最初、答えてくれそうだという人を探すのに苦労しました。しかし、様々な人と交流することの大切さを学び、楽しい経験をすることができました。今後もこのような機会に参加していきたい。

鈴木秀法君（経済・2年）蔵の街プロジェクト

私は、半田市によく遊びに来ます。半田市の衣浦湾沿いの醸造倉庫群は近代産業史上において重要な建造物であり、優れた景観を保持しています。しかし、醸造倉庫はじめ、半田市の観光資源の詳細を教えてくださいと言われたら、今は、教えることが困難ですが、このプロジェクトを通して伝えることができるようになります。

半田市を自らの足で歩き、そして地域を再発見し、さらにアンケート調査を行うことで地域の人ともふれ合うことができるのが、このプロジェクトの良い所です。



左から鈴木君、村松君

村松寛史君（経済・2年）蔵の街プロジェクト

今回のようにプロジェクトで地域に出ていく活動は、初めてでした。アンケート調査にあたって、事前に半田市についてしっかり調べてまとめていたのですが、それでも逆に半田市のことで質問を受けて答えられないこともありました。アンケート調査をするにあたって、まず自分自身が地域のことを知っておくことの大切さを実感しました。

また、アンケートを行っていて、市内の人より、逆に市外の人の方が半田市に詳しい場合が多々見られたことは印象的でした。

尾治直樹君（経済・2年）蔵の街プロジェクト

アンケート調査は思ったよりも難しかったいへんでした。なかには、答えてくれない方もありましたが、アンケートに協力してくれた人たちの思いを今後の半田の魅力づくりに反映していきたい。

アンケートに答えてくれた人で自分たちよりも半田に詳しい人が多く、また祭りや半田のことを聞かれてもわからないことが多く、半田のことについて勉強しないとイケないと思いました。これからもアンケートをとる機会があるので、アンケートの取り方、聞き方などうまくいきたい。



左から尾治君、竹内君

竹内 基君（経済・2年）蔵の街プロジェクト

地域活動への参加は今回が初めてで最初は戸惑いもありました。夢中でしたが、アンケート調査行って、たくさんのことを学んだように思います。

私は近くに住んでおり、よく半田には来ますが、実際にアンケート調査を通してイベントに来た人たちから半田の知らない部分を教えられることが多かったです。面倒なアンケートにも親身になって回答してくれた人のやさしさなど、今回の経験を活かしてがんばっていきたくと思います。